

◆サブタイトルと本企画に込めた思い

「ピカ」とは原爆爆発時の閃光、そして原爆そのものの俗称です。80年前の夏、広島と長崎では原爆の閃光とともに尊い多くの命が奪われました。

もう二度とあのような悲劇を繰り返してはならない—仙台平和七夕は「ノーモアヒロシマ、ノーモアナガサキ」を訴え続け、50回となりました。戦後80年、平和七夕50回という節目を前にして、わたしたちは一人ひとりの命が「キラキラ」と輝く平和な世界を創り出していきたいと思うのです。その願いを「ピカからキラへ」と表現しました。

50歳のお祝いのことを「早寿」といいますが、同じ発音で韓国語に「ソウジュ（小宇宙の意味）」という言葉があります。平和七夕50回記念、七夕から連想される天の川、どこまでも広がる宇宙をイメージしました。

革命という意味の「レボリューション」には、この企画を通して一人ひとりの中に小さな変革をもたらしたいという思いがあります。若者から大人まで、また被爆者の方々と共に「ノーモアヒロシマ・ナガサキ」の旗を掲げ、進み続けていく小さな変革者でありたいと思います。

今回「平和を祈る七夕市民の会」の皆さんから、一緒に50回記念講演を作り上げていきたいというありがたいお声がけをいただきました。サブタイトル、ロゴやチラシ、このプログラムの作成、展示や企画など多くのことを任せいただきました。至らぬ点もあるかと存じますが、共催の一端を担う者としてご来場いただけたことに心から感謝申し上げます。

尚絅学院高等学校 宗教部生徒一同

「仙台平和七夕」 50回記念講演会

～ピカからキラへ 50th 早寿レボリューション～

「核廃絶」の訴えを
未来の世代にリレーする

日時:2025年7月19日(土)

会場:尚絅学院高等学校 礼拝堂

共催:平和を祈る七夕市民の会
尚絅学院

協力:尚絅学院高校 宗教部生徒



◆ロゴに込めた思い◆

平和への願いを表すためにデザインしました。折鶴は核による悲劇や戦争の悲しみを二度と繰り返さないという「平和への願い」を象徴しています。七夕飾りにその願いを託し、そのメッセージが世界に届きますようにという思いがあります。

プログラム

【第一部】基調講演

◆日本原水爆被害者団体協議会

代表委員 田中 熙巳 さん

〈 休 憩 〉

【第二部】平和教育実践トークと生徒企画

◆1.宮城学院女子大学 特任教授

大平 聡 さん

◆2.尚絅学院中高 聖書科・宗教部顧問

赤井 慧 さん

◆3.尚絅学院高校

宗教部生徒によるクイズ企画

【展示について】

場所：3階ホワイエ(礼拝堂後方出口)から大会議室

内容：仙台平和七夕の歩み（年表・資料・動画）

原爆パネル展

休憩やお帰りの際にご覧ください。

講演者紹介



たなか てるみ
田中 熙巳 さん

1932年4月29日に満洲国生まれ。長崎市移住後、13歳のときに自宅で被爆。1993年に東北大学で博士(工学)を授与され研究・教育に取り組む。日本原水爆被害者団体協議会代表委員として2024年のノーベル平和賞の受賞式でスピーチ。



おおひら さとし
大平 聡 さん

1955年神奈川県生まれ。横浜国立大学卒業後、東京大学大学院修了(文学修士)。宮城学院女子大学教授として日本古代史・天皇制や戦時教育史を研究し、学校資料の保存・活用にも尽力。



あかい さとし
赤井 慧 さん

仙台第一高等学校、東北学院大学文学部キリスト教学科卒業。同大学大学院在籍時に受洗と東日本大震災を経験し転機を得る。2012年から尚絅学院中高聖書科として勤務。宗教部の顧問としてキリスト教教育に携わる。